



第4号

令和7年7月1日
文責 山田 康成

町たんけん～美九里の由来～

6月16日（月）、2年生は学校外での「町たんけん」の学習を行いました。

今回は、給食センターの見学がメインで、その後、防災公園や椿社（つばきもり）神社を「たんけん」しました。椿社神社には、神社の由来を示す石碑があり、そこには「美九里」の地名に関する記述もありました。せっかくの機会ですので郷土の歴史を知るうえでも、「美九里の由来」【なぜ、この場所を「みくり」と呼ぶようになったのか】について少し解釈を加えながら説明します。

三重県にある「伊勢神宮（正式には「神宮」）」は日本で最も格式の高い神社です。伊勢神宮には二つのお宮があり、それぞれ「内宮（ないくう）」「外宮（げくう）」と呼ばれています。内宮には太陽の神「天照大御神（あまてらすおおみかみ）」がまつられ、外宮には衣食住の神「豊受大御神（とようけのおおみかみ）」「豊受姫命（とようけびめ）」がまつられています。

さて、今から900年以上昔の平安時代、浅間山が大噴火をおこし、火山灰が藤岡市にも降り注ぎ、農作物が大きな被害を受けました。そこで、近隣の人々は復興を願って、この地を伊勢神宮に寄進して神領としました。土地を寄進することで税を減らすねらいもあったようです。

このように伊勢神宮など神社に寄進された土地のことを「御厨（みくり・みくりや）」と呼びます。この地が「みくり」と呼ばれるようになったのは、このようないわがあるのです。また、椿社神社の主祭神が伊勢神宮外宮にまつられている「豊受大御神」なのも、このことに由来します。

さて、「みくり」の漢字が「御厨」から「美九里」になったのはなぜでしょう。それは、明治時代になって、神流川左岸にある「根岸」・「本郷」・「川除」・

「牛田」・「神田」・「矢場」・「保美」・「三本木」・「高山」の9つの村が合併し、新しい村を作るときに、もともとの地名である「みくり」に、美しい九つの里の字をあてて、「美九里村」と書いたからだとのことです。美九里の地名にこのようないわがあったのは正直驚きました。

これからも、歴史に彩られた美九里について、紹介していきたいと思います。



7月の主な予定

1(火) 委員会	14(月) 1円玉募金【業前】
4(金) 事務整理日（13：40下校）	15(火) 資源回収【業前】、クラブ
5(土) 資源回収日	16(水) 環境整備（詳細は下記） S C来校、大掃除⑤
8(火) 水泳授業（午前2年、午後4年）	
10(木) 読み聞かせ【業前】 事務整理日（13：40下校）	17(木) 水泳授業（午前5年、午後6年） 18(金) 1学期終業式
11(金) 自転車安全教室（3年）	22(火) *教育相談～28(月)

* 7／22からの教育相談ではお世話になります。お子さんのよい話はもちろんですが、せっかくの機会ですので、不安や心配事も遠慮無く担任にお話ください。

尾瀬ネイチャーラーニング

6月20日（金）、4年生は尾瀬ネイチャーラーニングに行ってきました。ワタスゲやヒメシャクナゲ、ニリンソウなど初夏の尾瀬を彩る花々が咲き乱れる晴天の尾瀬ヶ原を散策し、尾瀬の魅力を満喫するとともに尾瀬の自然を守るために人々の努力も知ることができ、大変有意義な時間を過ごすことができました。朝早くからのお弁当作りや準備等保護者の皆様にはお世話になりました。ありがとうございました。



古墳見学

6月18日（水）、6年生は藤岡市内の「古墳見学」に行ってきました。最初に訪れた「伊勢塚古墳」は、石室の中にまで入って見学することができ、貴重な経験ができました。伊勢塚古墳の石室は、大型の自然石とその周りに細長い石を差し込んだ独特の作りで、非常に特徴的な模様になっており、市内にこんな素晴らしいものが残っていることに驚きました。また、次に訪れた「七輿山古墳」は、説明がなければ、名の通り「山」だと思ってしまうほど、巨大な建造物で今から1500年以上前にこのような巨大な墓をだれがどのようにして造ったのか、遙かな昔に思いをはせるひとときとなりました。盛夏を思わせる天候でしたが、改めて郷土の文化に触れる学びとなりました。

【お知らせ】

『美九里地区地域づくり協議会』の「小学校環境整備」について、環境整備作業日が以下のように決まりました。回覧でも案内が回りますが、保護者の方も参加できるお知り合い等いらっしゃいましたら声をかけていただけるとありがたいです。

[美九里地区地域づくり協議会による小学校環境整備]（詳細は回覧板をご覧ください）

○日 時：令和7年7月16日（水） 午前8：00～午前9：00

○作業内容：除草作業や剪定 等